

2002年3月5日

アジアの世紀と日本の社会福祉の今後 第20期理事会の課題

会長 大橋 謙 策

21世紀の最初の日本社会福祉学会研究発表大会が昨年の10月に、沖縄県で行われました。21世紀は「アジアの世紀」とも言われるだけに、沖縄県で「アジアの社会福祉と日本」をテーマに海外からの研究者を招聘しての大会が成功裡に終わったことは嬉しい限りです。沖縄県での開催にご尽力頂いた会員諸氏に紙面をお借りして改めて感謝申し上げます。

しかしながら、21世紀の幕開けの年は一方で悲しいテロ事件とアフガン紛争で明けてしまいました。“人権（ヒューマンライト）と社会正義（ソーシャルジャスティス）の原理を基に、人間の権利（ウェルビーイング）の増進をめざすソーシャルワーク”の実践に関する教育・研究を主たる課題とする日本社会福祉学会にとっては悲しい世紀の幕開けになってしまいました。

戦後日本の社会福祉の教育・研究は多くの先輩諸氏により、多くの理論、知見を有形、無形の形で海外に学び、導入してきました。21世紀には、その理論、知見を日本の風土、文化に馴染んだ形で理論的にも、実践的にも定着させることが課題です。2001年の社会福祉法への改称・改正により、ますますその理念の具現化を図る条件は整ってきました。しかし、だからといって日本の社会福祉教育・研究が日本国内の問題だけに目を向けて、その理論化と実践を深めるだけではいけません。かつて、日本が海外に学び、海外の支援を得て、今日まで来たように、これからは少なくともアジアに向けて、日本の国際的貢献を果たさなければならぬ時期です。それどころか、日本の社会福祉問題を解決していくためにも国際的貢献は必要不可欠なものとなりつつあります。金融を始めとした経済のグローバル化、地球規模での環境汚染を考えると、日本一国で自己完結できると思っていた社会福祉・社会保障さえも、その存立が脅かされる時代になっています。少子・高齢社会の進展に伴う影響もさることながら、金融を始めとした経済のグローバル化の影響の方が日本の社会福祉・社会保障に与える影響には大きなものがあるかもしれません。それだけに国際的視野をもった社会福祉・社会保障の教育・研究が必要とされますし、日本の国際的貢献も求められています。

ところで、私自身は昨年の第49回大会において、今後3年間（2001年10月～2004年10月）の第20期日本社会福祉学会の会長に選任されました。第19期に引き続いての会長職ですが、何卒よろしくお願い致します。

第19期理事会は、21世紀に向けて学会をより活性化させるために「21世紀の日本社会福祉学会の組織・運営のあり方委員会」を設置し、討議を重ねてきました。

お陰様でその報告は総会でも了承されました。その報告に基づき、理事選挙のあり方も含め、規約改正を行い、21世紀に向けた活性化の計画は着々と進んでいます。

また、19期理事会で設置した「社会福祉学研究助成振興委員会」の活動も評価され、2003年度（平成15年度）文部科学省所管の科学研究費において「科学研究費分科細目表」で社会福祉学を独立した細目にすることができました。このことと関わって、日本学術会議に登録している22の社会福祉系学会の世話学会として、日本社会福祉学会も設置に賛同し、支援している「ソーシャルケアサービス従事者養成・研修研究協議会」が2000年5月に設置され、日本社会事業学校連盟等の養成機関、日本社会福祉士会等の職能団体がほぼ参加し、教育、研究、実践の関係者の共通論議の場ができました。

更には、韓国社会福祉学会との学術交流も正式な制度として定着をみました。“近くて遠い国”と言われてきた韓国と交流が深まることはとても喜ばしいことです。

第20期理事会は、これら第19期の活動を継承し、「21世紀の日本社会福祉学会の組織・運営のあり方委員会」報告の具現化を図ることが基本となりますが、大切にしたい一つは「社会福祉学研究と倫理」問題です。福祉サービス利用者の人権擁護と倫理、社会福祉学教育・研究上の倫理、ヒトゲノム・臓器移植等問題と社会福祉等検討すべき課題が多々あり、その面での研究と対応が遅れています。大きな、かつ重要な問題ばかりではあります。第20期の任期中に一定の考え方をまとめたいと考えています。

第20期の任期中には、第50回という記念すべき大会が日本社会事業大学で開催されますし、2004年には日本社会福祉学会創設50周年を迎えます。また、2003年7月には、第17回アジア太平洋社会福祉教育・専門職会議が日本の長崎で行われます。この大会を成功させ、社会福祉面からのアジアへの国際貢献に一役買いたいものです。

第2次世界大戦後の荒廃とした中で、憲法の規定を大切に発展してきた日本の社会福祉を21世紀に大きく羽ばたかせ、憲法前文の理念（「全世界の国民がひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する」）を具現化させる重要な役割が第20期には課せられています。私も微力ではありますが、理事の方々と共に、理事会一丸となって頑張りますので何卒ご支援、ご協力をお願い致します。



日本社会福祉学会第49回全国大会を終えて

大会実行委員会事務局長 保 良 昌 徳

自主企画シンポは立ち見がでるほど——

2001年10月20日（土）、21日（日）に沖縄県宜野湾市内の沖縄コンベンションセンターと沖縄国際大学を会場として、第49回全国大会が開催された。

初日の午後、カリフォルニア州立大学ジェイムズ・ミッジリィ氏による「グローバリゼーションと社会福祉—国際社会福祉との関連」という演題のもと記念講演がもたれた。同氏はグローバリゼーションの概念が経済的な意味合いだけに限定され、否定的に語られる中で、グローバリゼーションの概念を再定義し、肯定的な可能性についても認識されなければならないと語り、多くの人の関心を集めた。記念講演に引き続き「東アジアの社会福祉と日本への期待」をテーマに、香港社会福祉協議会会長のケイ・Y.K.クー氏、韓国の江南大学校社会福祉学部教授の世南氏、国連アジア太平洋経済社会委員会開発部障害担当官の高嶺豊氏、日本社会事業大学社会事業研究所教授の萩原康生氏の4人がシンポジストとなり、大橋謙策会長のコーディネーターのもと大会シンポジウムが行われた。

基調講演及びシンポジウムは同時通訳で行われ、会員や学生、一般参加、大会スタッフなど、合計約1200名の見守る中、大変な盛り上がりを見せた。

また、初日の午前中、4つの自主企画シンポジウムがもたれ、朝早くから大勢の人が訪れ、会場では立ち見が出るほどであった。また別棟では、出版社による本の展示販売、沖縄県内の授産施設等の出店などが開かれた。

ミニシンポのテーマは次の大会へも継続——

大会2日目、場所を沖縄国際大学に場所を移し、午前中、日本社会福祉学会とアジア社会福祉学会の共済で「アジア社会福祉における国際協力と国際協調をめざして」と題し、初日に記念講演をされたミッジリィ氏をファシリテーターに迎え、日社大の萩原康氏をコーディネーターに、特別企画シンポジウムが開かれた。

シンポジストにはインドネシアのアトマジャヤ・カトリック大学社会開発研究所教授のイルワント氏、岩手県立大学社会福祉学部教授のM・ラジェンドラン氏、フィリピン大学社会福祉学部教授のエベリナ・バンガ

ランガン氏、シンガポール国立大学教授のギャン・ティ・リャン氏らを迎えて開かれた。個人研究発表や2つの自主企画シンポジウムと平行して開催されたが、多数の参加者のもと盛況のうちに終了した。特別企画シンポジウム終了後に、引き続き学会年次総会が行われた。

2日目の午後に開かれたミニシンポジウムは、複数の年度にわたり継続して議論を深めることを意図して開かれるもので、ミニシンポジウムⅠが来年度の大会でのテーマとなる「社会保障制度改革と社会福祉」と題して開かれた。東洋大学の古川孝順氏をコーディネーターとして、シンポジストには日社大学長の京極高宣氏、厚生労働省社会・援護局の森山幹夫氏、内閣府参事の椋野美智子氏、法正大学の杉村宏氏らをむかえ、シンポジウムⅡは再来年度の大会で取り上げられる予定のテーマで「社会福祉実践を問う—ソーシャルワークとケアワーク」と題して開かれた。シンポジストに日社大の渡辺裕美氏、東海大学の本名靖氏、大正大学の橋本泰子氏、仙台白百合女子大学の中村裕子氏を迎え、大阪市立大学の白澤政和氏をコーディネーターにそれぞれ活発な議論がくり広げられた。

また、今回の沖縄大会を記念して、本大会実行委員会が主催して2つの自主企画シンポジウムを開いた。一つは、「沖縄における国際児に関わる問題と支援—総合相談・アメリカンの教育権と養育費確保の法的支援—」をテーマに、当事者団体や弁護士、ソーシャルワーカーなどからの発表を中心に活発な議論がなされた。他の一つは、「離島における福祉問題の特徴と課題」と題し、離島研究者や行政担当者などから発表がなされ、議論が深められた。

また、これらの特別企画やミニシンポジウムと平行して、午前中、24部会で自由研究発表がなされ、46本のポスター発表などがなされた。午後からの合計49の部会が前半と後半に分けて行われた。自主企画シンポジウムが午前と午後に2本ずつ開かれた。また、特別企画として沖縄紹介コーナーでは「終戦50周年記念ビデオ」の上映や沖縄の社会福祉のながれのパネル展示などが行われた。

最終的に、本大会への参加者は、事前申し込みによる参加者が705名、2日間の当日受付者151名、学生参加者164名、さらに記念講演・大会シンポジウムのみ



の参加が約140名となった。また、大会実行委員会を含むスタッフが合計354名、さらに裏方で大きな力となった県内社協職員や医師・看護婦、施設関係者や余興出演者などのボランティアは2日間で約40名にのぼった。さらに、16社の出版社による出店、県内授産施設15カ所からの出店など、多くの協力を得ることができた。

沖縄ならではのこころみ——

今回の沖縄での大会は、大橋会長からの強い勧めと、21世紀の初めの大会ということで、沖縄県内の学会員は引き受けに躊躇や不安もあったが、決定後は最後まで大会の成功にむけて協力してきた。以下、本大会の運営体制や内容におけるいくつかの特徴をあげてみた。

始めに、本大会の運営が、一大学に十分な会員がいなかったために、県内の大学や短大、施設等に従事する会員が中心となり、県地域福祉学会及び県社協の関係者などで組織する実行委員会によってなされたことである。

次に、大会の会場が2つに分かれた点が上げられる。これは、基調講演や大会シンポジウムなど、1000人規模の参加者を収容するホールが大学になかったためである。これによって、全体会は余裕をもって開催することができた反面、参加者や発表者にも移動の負担をかけたほか、二重の会場設営の手間や、初日の夜の警備など、特に出店業者の展示など、初日終了後の大移動劇と人手を必要とされた。

第3に、コンピュータやインターネットの利用である。準備当初から、事務の円滑化を図る目的で、ホームページを通して大会参加や発表の申し込みなどの受付を試みた。大会当日も、インターネットコーナーを開設し自由に活用していただいた。しかし、事務の一部が簡略化し当日のインターネット利用は好評であった反面、ホームページ作成やプロバイダーや旅行者との連携、特に技術的トラブルの修復には手間取ることになってしまったこと、またEメールによって受け付けたために、原稿に文字化けや数字が消えてしまうなどの事態が発生し、発表者に迷惑をかけてしまうなど、反省点も多かった。

そのほか、沖縄色を出す工夫として、前述の、本実行委員会の企画による2つのシンポジウムがある。内容として、沖縄県の歴史的、地理的な問題を反映して、現実には大きな問題となっている国際児問題と離島の福祉問題を取り上げた。いわゆるアメラジアンへの処遇をめぐる議論は沖縄県内にとどまらず、広く日本国内、さらにはアジア全域の問題にも通ずる問題である。

また、離島における福祉問題も、島嶼県である沖縄の現実の問題であると同時に、広く全国に点在する小離島の問題であり、アジア・太平洋などに見られる島嶼、ひいては過疎地における福祉施策のあり方について問題提起をすることを意図したものであった。

また、大会の中で沖縄コーナーを特設し、ビデオ上映と戦後の福祉施策のながれをパネルと印刷物を通して紹介した点である。これは、いわゆるゼロからの出発といわれる沖縄の戦後のながれを、戦後50周年を記念して編集された1フィート運動の沖縄戦の記録フィルムを常時上映し、同時に年表や資料、また説明によって理解してもらうことを意図したもので、参加者から好評を得ることができ、ビデオも多く販売された。

さらに、初日夜の懇親会を、遊覧船上のディナーパーティーにしたことも、沖縄色の工夫の一つであった。約3時間、沖縄の海と夜景、沖縄の料理と芸能を楽しみながら、約300名の会員にクルージングを楽しんでいただいた。参加者からの喜びの声を聞き、事務局としても胸をなでおろしているところである。

最後に、本大会は、沖縄という遠隔地での開催のため、参加者の予想がつきにくい面もあった。しかし、当初800名以上の参加申し込みがあったにもかかわらず、直前になって100人以上の参加の取り消しがあり、発表などの取り消しも多かった。9月に起きたニューヨークでの飛行機テロ事件と、沖縄という地域性によるものと考えられる。直前に取りやめになった別の学会もあると聞いている。当初の予定されていた役割の変更などの調整も多く、旅行者もその後整理に大きな時間をとられることになったのも、今大会の特徴の一つといえよう。

最後に、大橋会長を始めとする理事会の配慮によって、21世紀初という記念すべき大会を沖縄で開催できたことは、沖縄在住の会員にとって大きな名誉であり、多くのことを学ぶ機会となった。開催に際しては、学会関係者、学会事務局、また前回開催校の日本女子大学関係者、その他多くの関係者からのご指導と励ましの言葉をいただいた。また、県内外の出版社や企業、また沖縄県社協や行政関係者、その他多くの支援をいただくことができた。特に、国内外からごシンポジウムや研究発表にご協力と、多くの参加者のご協力を得て本大会を終了することができたことに対し、実行委員一同とともに心からの感謝申し上げたい。

また、連絡の遅れや印刷の不備、その他の不手際によって、関係者にご迷惑をおかけしたことに対しては、事務局をあずかった者としての責任を感じ、心からお詫び申し上げる次第である。

日本社会福祉学会2001年度総会

日本社会福祉学会2001年度総会では、「21世紀の日本社会福祉学会の組織・運営のあり方委員会」報告を受けて、例年になく議案が多く、第1号議案から第7号議案までが審議され、すべて承認された。以下に、全議案を紹介しておく。

【第1号議案】

「日本社会福祉学会規約等」の大幅な改正が行われた。7つの規約等の改正があり、本号では主要な改正点の要約を示すに留めておく。

1. 日本社会福祉学会規約

○第4条の「学会の事業」について、第1に全国大会の開催、第2に学会誌の発行を位置付けた。

○第10条に「会員の除籍条項」を設け、学会の名誉を著しく傷つけた場合、理事の3分の2以上の提案により、総会出席会員の3分の2以上の同意を得て、除籍できるとした。

○第12条で、役員として副会長を加え、第16条で、副会長は理事の中から会長が指名し、会長が事故ある場合には、会長の職務を代行するとした。

○第15条で、会長の任期は2期を限度とすることとした。

○第26条で、本規約は会員の10分の1以上、または理事の過半数の提案により、総会出席会員の3分の2以上の同意をもって改正できるとした。

○第27条で、本会は会員の3分の1以上、または理事の3分の2以上の提案により、総会出席会員の3分の

2以上の同意をもって解散できるとした。

(2001年10月21日より施行する)

2. 日本社会福祉学会 名誉会員制度規定

○第2条で、名誉会員に推挙できる要件を、会長を務めた会員及び理事・監事の職を通算12年以上務めた会員と改正した。

(2004年の役員改選から施行する)

3. 日本社会福祉学会 理事及び監事選出規則

○第4条で、理事の選挙方法を改正し、第1項で、理事の7名は会員の中から5名連記の無記名投票により選出するとした。第2項で、地方担当事務は地域ブロック別に1名を無記名投票により選出するが、第1項で選出された理事を除外するとした。

○第5条の監事の選挙については、選挙で選出された理事については、監事になれないこととした。

○第7条で、理事または監事として合わせて4期務めた場合には、それ以降は被選挙権を有しないとした。さらに、選挙の名簿は、選挙当該年度の4月1日現在とした。

(2004年の役員から施行する)

4. 日本社会福祉学会 理事会運営内規

○第2条で、理事の役割分担は、理事会において決定することとした。

○第4条で、運営委員会は、会長、副会長、総務担当事務、研究担当事務の1名、渉外担当事務の1名、機関誌担当事務の1名、庶務担当事務で構成するとした。

(2001年10月21日より施行する)

第7号議案

阿部志郎、小倉襄二、佐藤進会員が名誉会員に

沖縄国際大学で2001年10月21日に行われました日本社会福祉学会2001年度総会において、阿部志郎、小倉襄二、佐藤進の3会員が理事会から名誉会員に推挙され、満場一致で名誉会員になりました。

阿部志郎会員は、現在横須賀基督教社会館館長ですが、本学会については1995年から1997年の第18期会長をお務めいただき、この会長期を含めて6期18年の長きにわたり理事として学会の運営に携わってこられました。

小倉襄二会員は、現在大阪人間科学大学教授ですが、同志社大学で長く教鞭をとられ、同志社大学名誉教授ですが、5期13年間にわたり本学会理事としてご活躍いただきました。

佐藤進会員は、現在新潟青陵大学教授で教鞭をと

られておられますが、元金沢大学教授、日本女子大学名誉教授であられ、本学会においては、5期15年間の監査として、学会の会計や活動の状況についてご指導をいただけてきました。



本学会への数々のご貢献・ご指導に対して、三人の名誉会員に心からお礼を申し上げ、今後ともご健康で、ご研究や教育に邁進され、学会や会員に対して一層ご指導賜りますようお願い申し上げます。



5. 日本社会福祉学会 事務局内規

○第2条で、事務局会議を総務担当理事、研究担当理事および渉外担当理事のそれぞれ1名、庶務担当理事で構成するとした。

(2001年10月21日より施行する)

6. 機関誌編集委員会規程

○3で、編集委員長および副編集委員長は担当理事があたるとした。

○7で、査読委員および臨時査読委員については、公表するものとした。

(2001年10月21日より発効する)

7. 機関誌編集規程

○8で、本誌に掲載された著作物の著作権は日本社会福祉学会に帰属するが、著者自身が使用する場合は、この限りでないとした。

(2001年10月21日より施行する)

【第2号議案】2000年度事業報告および決算・監査報告

2000年度 日本社会福祉学会 一般会計 収支計算書

自2000年4月1日 至2001年3月31日

(1) 収入の部		(単位:円)	
款	目	2000年度 補正予算額	2000年度 決算額
1	会費収入	24,626,500	25,990,000
2000年度分会費および過年度分会費 (3,282人×7,000円+377人×9,000円)			
2	機関誌売上	500,000	1,201,750
機関誌「社会福祉学」 255冊×2,500円 195冊×2,250円 40冊×1,600円 41冊×1,500円			
3	寄付金収入	0	0
4	補助金収入	0	0
5	助成金収入	0	0
6	雑収入	55,000	146,280
事業費納入 0			
預金利息 5,000			
その他 50,000			
7	繰越金収入	8,771,146	6,771,146
繰越金収入 1999年度からの繰越金			
合 計		31,952,646	34,109,176

(2) 支出の部		(単位:円)	
款	目	2000年度 補正予算額	2000年度 決算額
1	事業費	12,480,000	11,510,332
大会費 2,000,000			
機関誌発行費 5,100,000			
望金還元費 2,480,000			
特別委員会費 250,000			
特別事業費 0			
学会ニュース刊行費 1,410,000			
選挙管理費 0			
学術会議研究連絡委員会活動協力金 240,000			
2	事務費	14,100,000	10,378,235
1 会議費 400,000			
2 理事会運営費 1,700,000			
3 渉外折衝費 650,000			
4 消耗品費 350,000			
5 印刷費 800,000			
6 通信費 1,000,000			
7 人件費 4,500,000			
8 交通費 200,000			
9 事務所費 4,500,000			
3	特別会計繰出金	5,000,000	5,000,000
特別会計繰出金 5,000,000			
4	予備費	372,546	619,340
予備費 372,546			
5	次期繰越金	0	6,601,269
合 計		31,952,646	34,109,176

【特別会計1】2000年度日本社会福祉学会 運営基金会計 収支計算書

自2000年4月1日 至2001年3月31日

(1) 収入の部		(単位:円)	
款	目	2000年度 補正予算額	2000年度 決算額
1	前年度繰越金	2,629,842	2,629,842
2	一般会計繰入金	2,000,000	2,000,000
3	利子	1,000	1,863
合 計		4,630,842	4,631,725

(2) 支出の部		(単位:円)	
款	目	2000年度 補正予算額	2000年度 決算額
1	名簿作成費	0	0
選挙用紙送料 0			
2	予備費	4,630,842	0
選挙用紙印刷送料 0			
3	繰越金	0	4,631,725
合 計		4,630,842	4,631,725

【特別会計2】2000年度日本社会福祉学会 特別事業会計 収支計算書

自2000年4月1日 至2001年3月31日

(1) 収入の部		(単位:円)	
款	目	2000年度 補正予算額	2000年度 決算額
1	前年度繰越金	1,904,957	1,904,957
2	一般会計繰入金	3,000,000	3,000,000
3	利子	100	1,430
4	雑収入	0	0
合 計		4,905,057	4,906,387

(2) 支出の部		(単位:円)	
款	目	2000年度 補正予算額	2000年度 決算額
1	事業費	0	0
2	会議費	300,000	0
3	予備費	4,605,057	0
4	繰越金	0	4,906,387
合 計		4,905,057	4,906,387

【特別会計3】2000年度日本社会福祉学会 助成金事業会計 収支計算書

自2000年4月1日 至2001年3月31日

(1) 収入の部		(単位:円)	
款	目	2000年度 補正予算額	2000年度 決算額
1	前年度繰越金	102,597	102,597
2	利子	0	64
合 計		102,597	102,661

(2) 支出の部		(単位:円)	
款	目	2000年度 補正予算額	2000年度 決算額
1	繰出金	0	0
2	予備費	102,597	0
3	繰越金	0	102,661
合 計		102,597	102,661

日本社会福祉学会 一般会計 貸借対照表

2001年3月31日現在

(単位:円)		(単位:円)	
借方	貸方	借方	貸方
科 目	金 額	科 目	金 額
1. 流動資産	6,786,269	1. 流動負債	185,000
普通預貯金	6,594,959	未払金	50,000
郵便振替貯金	191,310	前受金	135,000
立替金	0	2. 固定負債	0
2. 固定資産	1,689,143	3. 運用資産	8,290,412
備 品	1,174,143	運用財産基金	1,689,143
繰延資産	515,000	繰越金	6,601,269
資産合計	8,475,412	負債合計	8,475,412

日本社会福祉学会 運営基金会計 貸借対照表

2001年3月31日現在

(特別会計1) (単位:円)		(単位:円)	
借方	貸方	借方	貸方
科 目	金 額	科 目	金 額
1. 流動資産	4,631,725	1. 流動負債	0
普通預金	4,631,725	2. 繰越金	4,631,725
資産合計	4,631,725	負債合計	4,631,725

日本社会福祉学会 特別事業会計 貸借対照表

2001年3月31日現在

【特別会計Ⅱ】

(単位:円)

借方	貸方
科目	金額
1. 流動資産	4,856,387
普通預金	4,856,387
2. 未収金	50,000
資産合計	4,906,387
1. 流動負債	0
2. 繰越金	4,906,387
負債合計	4,906,387

日本社会福祉学会 助成金事業会計 貸借対照表

2001年3月31日現在

【特別会計Ⅲ】

(単位:円)

借方	貸方
科目	金額
1. 流動資産	102,661
普通預金	102,661
資産合計	102,661
1. 流動負債	0
2. 繰越金	102,661
負債合計	102,661

日本社会福祉学会 財産目録

2001年3月31日現在

内 容	金額	円
【資産の部】		
I 流動資産		
1. 預貯金		
(1) 普通預貯金		
・郵便局通常貯金 NO33688971	2,740,917	
・第一勧業銀行/四谷支店 (一般会計) NO1859336	3,854,042	
・第一勧業銀行/四谷支店 NO1866235	4,631,725	
(特別会計1 学会運営基金会計)		
・第一勧業銀行/四谷支店 NO1868254	4,856,387	
(特別会計2 特別事業会計)		
・第一勧業銀行/四谷支店 NO1868262	102,661	
(特別会計3 助成金事業会計)		
(2) 郵便振替貯金	191,310	191,310
東京野全事務センター (00155-59882)		
(3) 未収金 (特別会計Ⅱ)	50,000	50,000
流動資産合計		16,427,042
II 固定資産		
1. 繰越資産 (コンピューター会員管理システム)	959,960	
(コンピューター-GATEWAY一式)	269,640	
(書庫)	459,543	
固定資産合計		1,689,143
資産合計		18,116,185
【負債の部】		
I 流動負債		
1. 前受金 (2001年度以降会費)	135,000	135,000
2. 未払金	50,000	50,000
流動負債合計		185,000
負債合計		185,000
差引正味財産合計		17,931,185

監査報告書

1. 監査事項

日本社会福祉学会2000年度実施事業ならびに会計収支決算について

2. 監査報告

監査の結果、事業は適正に実施され、また会計収支決算については、収支決算書、貸借対照表および財産目録と諸帳簿、証憑書類を対照検査し、正確に処理されていることをものとします。

2001年6月1日

日本社会福祉学会

監事 山本 忠雄

監事 山本 忠雄

会計監査の要望事項

2001年6月2日(土)午後2時より学会事務所において監査会を開催しました。

田端光美庶務担当理事、高橋総務担当理事より事業、会計報告を聴取の上、同日関係書類等2000年度事業、監査をおこないました。

予想以上の会員ならびに法人化などの学会組織のあり方、国際関係団体との交流拡充など事業ならびに会計支出などの苦労があるにもかかわらず、事務局の努力により会計および会務の執行状況が適正に行われていることを認め、ここに報告いたします。

今後、事務局体制のあり方ともかわかり、事務局職員の退職給付等の整備については、引き続き検討事項としていただきます。

2001(平成13)年6月20日

中垣 昌美
佐藤 進

【第3号議案】2001年度補正予算(一般会計および特別会計Ⅰ、Ⅱ)

2001年度 日本社会福祉学会 一般会計 補正予算書(案)

自2001年4月1日 至2002年3月31日

(1) 収入の部			
科目	2001年度 補正予算額	2001年度 当初予算額	備 考
1 会費収入	25,890,000	25,886,500	2001年度分 24,290,000円(3470人×7000円) (新入会員200人分 1,600,000円)
2 雑誌誌売上	1,000,000	500,000	雑誌誌「社会福祉学」200冊×5,000円/冊
3 寄付金収入	0	0	
4 補助金収入	0	0	
5 助成金収入	0	0	
6 雑収入	55,000	55,000	
1 事業費雑収入	0	0	
2 預金利子	5,000	5,000	銀行預金利子、郵便貯金利子
3 その他	50,000	50,000	資料代・出版著作権利料
7 繰越金収入	6,501,269	372,646	
合 計	33,546,269	26,814,146	
(2) 支出の部			
科目	2001年度 補正予算額	2001年度 当初予算額	備 考
1 事業費	14,960,000	12,940,000	
1 大会費	3,000,000	2,000,000	沖縄国際大学、日本社会福祉大学
2 雑誌誌刊行費	6,000,000	6,300,000	雑誌誌「社会福祉学」42巻1号および2号刊行費、郵送費、編集委員会費等
3 部会運営費	2,700,000	2,550,000	7地方部会
4 特別委員会費	1,370,000	250,000	ホームページ委員会30万円、社会福祉学研究助成、編集委員会65万円、ヒトゲノム研究委員会21万円、21世紀学会の組織・運営のあり方委員会21万円
5 特別事業費	0	0	
6 学会ニュース刊行費	1,500,000	1,500,000	学会ニュース印刷(27号、28号、29号)、郵送費
7 清算管理費	0	100,000	
8 学術会議研究連絡委員会活動協力金	290,000	240,000	日本学術会議社会福祉・社会保険研究連絡委員会活動協力金
2 事務費	13,600,000	12,150,000	
1 会費費	450,000	400,000	理事報酬費等
2 理事会運営費	1,600,000	1,500,000	理事費、活動費等
3 渉外新会費	400,000	700,000	海外学会交流費30万円、韓国留学生交流費10万円
4 消耗品費	350,000	350,000	印刷用紙・事務用品費等
5 印刷費	800,000	800,000	経費資料・送付用紙・封筒等印刷費等
6 通信費	1,200,000	1,100,000	郵便料および宅配料等
7 人件費	4,600,000	4,600,000	事務局職員給与・アルバイト手当等
8 交通費	200,000	200,000	事務局職員・アルバイト出張交通費
9 事務所費	4,000,000	2,500,000	会費データベース作成費、事務所賃借料・光熱費・電話・コピーリース料等
3 特別会計補出金	4,000,000	1,000,000	名簿作成費(特別会計1)増立1,000,000円 50周年特別事業(特別会計2)補出金3,000,000円
4 予備費	986,269	724,146	21世紀の日本社会福祉学会の組織・運営のあり方委員会
合 計	33,546,269	26,814,146	

【特別会計1】2001年度日本社会福祉学会 運営基金会計 補正予算書(案)
自2001年4月1日 至2002年3月31日

(1) 収入の部 (単位:円)

款	目	2001年度 補正予算額	2001年度 当初予算額	備 考
1	前年度繰越金	4,631,725	4,630,842	
2	一般会計繰入金	1,000,000	1,000,000	
3	CD-ROM売上金収入	225,000	0	
4	利 子	1,000	1,000	
合 計		5,857,725	5,631,842	

(2) 支出の部 (単位:円)

款	目	2001年度 補正予算額	2001年度 当初予算額	備 考
1	名簿作成費	3,500,000	3,500,000	選挙人名簿等作成印刷費
	2 選挙用紙送料	1,000,000	1,900,000	選挙用投票用紙送付経費
	3 CD-ROM作成費	745,500	0	
2	予備費	612,225	231,842	
合 計		5,857,725	5,631,842	

【特別会計2】2001年度日本社会福祉学会 特別事業会計 補正予算書(案)
自2001年4月1日 至2002年3月31日

(1) 収入の部 (単位:円)

款	目	2001年度 補正予算額	2001年度 当初予算額	備 考
1	前年度繰越金	4,906,387	4,605,057	
2	一般会計繰入金	3,000,000	0	
3	利 子	100	2,000	
4	雑収入	0	0	
合 計		7,906,487	4,607,057	

(2) 支出の部 (単位:円)

款	目	2001年度 補正予算額	2001年度 当初予算額	備 考
1	事務費	0	0	
2	会議費	300,000	300,000	50年史編さん委員会費
3	予備費	7,606,487	4,307,057	
合 計		7,906,487	4,607,057	

【第4号議案】2002年度事業計画・予算

- 日本社会福祉学会第50回記念大会は日本社会事業大学(東京)で開催し、会員の研究発表の機会の確保と学会の研究水準の向上に資する。日本社会福祉学会第51回大会は四天王寺国際佛教大学(大阪)を中心に開催することとし、所要の準備をすすめる。
- 大会における研究水準の向上につとめ、研究発表部会の設定、報告時間、質疑・討議等のあり方等大会運営を検討する。
- 学会機関誌『社会福祉学』を年2回発行し、会員による研究発表の機会の拡大につとめ、学会全体としての研究レベルの向上につとめる。
- 学会ニュースの充実と定期発行につとめ、会員への情報の周知徹底をはかる。
- 学会の研究水準を高めるため地方部会への助成金の有効活用を促進し、各ブロックによる自主的研究活動の活性化を支援する。
- 21世紀の日本社会福祉学会の組織・運営のあり方委員会報告に基づいた改革を実施する。
- 英文誌 JAPANESE JOURNAL OF SOCIAL SERVICES NO.3 の発行の準備、および学会設立50周年(2004年)記念誌の編纂をする。
- 日本学術会議の事業および社会福祉・社会保障研究連絡委員会、登録・学協会に対し、世話学会とし

て社会福祉研究推進の立場から協力する。また、その一環として社会福祉学研究助成振興委員会の活動の促進およびソーシャルケアサービス従事者養成・研修研究協議会の活動を推進する。

- 日本学術会議登録団体および他の間系学会・団体との協力を深め、国内ならびに国際的な視野のもとに、社会福祉学研究水準の向上につとめる。
- 学会の国際的活動の一環として、当面韓国社会福祉学会と交流をすすめる、相互の学会の情報を提供し、本学会全国大会への招待と、韓国社会福祉学会大会の訪問および韓国社会福祉専攻留学生協議会の支援をする。
- ホームページ委員会を運営し、コンピュータによるホームページを開き、学会の活動を掲載して、会員に情報を提供する。掲載の内容については、広報委員会の了解のもとに当面日本語版の「入会のしおり」「機関誌『社会福祉学』もくじ」「学会ニュース」について提供するとともに会員等からの情報提供の場として「業績登録」「掲示板」を設ける。
- 学会事務の一部委託のあり方について検討する。
- 関係団体との連携を強めつつ、わが国における社会福祉の研究・教育の基盤整備につとめる。

2002年度 日本社会福祉学会 一般会計 予算書(案)
自2002年4月1日 至2003年3月31日

(1) 収入の部 (単位:円)

款	目	2002年度 予算額	2001年度 補正予算額	備 考
1	会費収入	27,430,000	25,890,000	2002年度分 25,830,000円(3690人×7,000円) (新入会員200人分 1,600,000円)
2	機関誌売上	1,000,000	1,000,000	機関誌『社会福祉学』200巻×5,000円 他
3	寄付金収入	0	0	
4	補助金収入	0	0	
5	助成金収入	0	0	
6	雑収入	55,000	55,000	
	1 事業費雑入	0	0	
	2 預金利子	5,000	5,000	銀行預金利子、郵便貯金利子
	3 その他	50,000	50,000	資料代・出版著作権利等
7	繰越金収入	986,269	6,501,269	
合 計		29,471,269	33,546,269	

(2) 支出の部 (単位:円)

款	目	2002年度 予算額	2001年度 補正予算額	備 考
1	事業費	14,890,000	14,960,000	
	1 大会費	2,000,000	3,000,000	日本社会事業大学他
	2 機関誌刊行費	6,500,000	6,000,000	機関誌『社会福祉学』43巻1号および2号刊行費、郵送料、編集委員会費等
	3 部会運営費	2,980,000	2,700,000	7 地方部会
	4 特別委員会費	1,400,000	1,370,000	ホームページ委員会、社会福祉学研究助成振興委員会、選挙権付委員会、ヒトゲノム検討委員会等
	5 特別事業費	0	0	
	6 学会ニュース刊行費	1,650,000	1,600,000	学会ニュース印刷(30号、31号、32号)、郵送料等
	7 選挙管理費	100,000	0	日本学術会議会員選挙
	8 学術会議研究連絡委員会活動協力金	260,000	290,000	日本学術会議社会福祉・社会保障研究連絡委員会活動協力金等
2	事務費	13,150,000	13,600,000	
	1 会議費	450,000	450,000	理事会開催費等
	2 理事会運営費	1,500,000	1,600,000	理事会費、活動費等
	3 渉外関係費	600,000	400,000	海外学会交流費等
	4 消耗品費	400,000	350,000	印刷用紙、事務用品費等
	5 印刷費	1,000,000	800,000	総会資料、申込用紙、封筒等印刷費等
	6 通信費	1,400,000	1,200,000	郵便料および宅配料等
	7 人件費	5,600,000	4,600,000	事務局職員給与・アルバイト手当等
	8 交通費	200,000	200,000	事務局職員・アルバイト出張交通費等
	9 事務所費	2,000,000	4,000,000	事務所賃借料・光熱費・電話・コピーリース料等
3	特別会計繰出	1,000,000	4,000,000	名簿作成費(特別会計1) 積立1,000,000円
4	予備費	431,269	986,269	
合 計		29,471,269	33,546,269	



【特別会計1】2002年度 日本社会福祉学会 運営基金会計 予算書(案)
自2002年4月1日 至2003年3月31日

(1) 収入の部 (単位:円)

科 目	2002年度 予算額	2001年度 増正予算額	備 考
1 前年度繰越金	612,225	4,631,725	
2 一般会計繰入金	1,000,000	1,000,000	
3 名簿売上	225,000	225,000	
4 利 子	100	1,000	
合 計	1,837,325	5,857,725	

(2) 支出の部 (単位:円)

科 目	2002年度 予算額	2001年度 増正予算額	備 考
1 名簿作成費	0	3,500,000	選挙人名簿等作成印刷費
2 選挙用紙送料	0	1,000,000	選挙用投票用紙送料
2 CD-ROM作成費	500,000	745,500	
3 予 備 費	1,337,325	612,225	
合 計	1,837,325	5,857,725	

【特別会計2】2002年度 日本社会福祉学会 特別事業会計 予算書(案)
自2002年4月1日 至2003年3月31日

(1) 収入の部 (単位:円)

科 目	2002年度 予算額	2001年度 増正予算額	備 考
1 前年度繰越金	7,606,487	4,905,387	
2 一般会計繰入金	0	3,000,000	
3 利 子	2,000	100	
4 雑 収 入	0	0	
合 計	7,608,487	7,906,487	

【第5号議案】理事および監事選挙結果

去る7月22日に日本社会福祉学会選挙管理委員会において、2001年改選理事及び監事選挙の開票を行いましたので、その結果を下記のとおりご報告いたします。

1. 選挙管理委員会の構成

・選挙管理委員会

委員長 坂田 周一 (立教大学)
委 員 高山 直樹 (和泉短期大学)
委 員 中谷 茂一 (聖学院大学)
委 員 村井 美紀 (東京国際大学)
委 員 和気 康太 (明治学院大学)

・立会人 事務局員

2. 投票状況

- (1) 有権者総数 (2001年7月21日現在) = 3,409名
- (2) 投票者総数 (2001年7月21日締切り) = 529名
- (3) 有効投票者総数 = 529名
- (4) 投票率 = 15.6% (前回選挙16.2%、前々回17.5%)
- (5) 理事

全投票総数 = 2645票
有効投票総数 = 2267票
無効票総数 = 378票 (うち白票275票を含む)

(6) 監事

全投票総数 = 1058票
有効投票総数 = 760票
無効票総数 = 298票 (うち白票239票を含む)

(2) 支出の部 (単位:円)

科 目	2002年度 予算額	2001年度 増正予算額	備 考
1 事務費	0	0	
2 会議費	300,000	300,000	150年史編さん委員会費
3 予 備 費	7,308,487	7,606,487	
合 計	7,608,487	7,906,487	

【特別会計3】2002年度 日本社会福祉学会 助成金事業会計 予算書(案)
自2002年4月1日 至2003年3月31日

(1) 収入の部 (単位:円)

科 目	2002年度 予算額	2001年度 予算額	備 考
1 前年度繰越金	102,661	102,597	
2 一般会計繰入金	0	0	
3 利 子	0	0	
合 計	102,661	102,597	

(2) 支出の部 (単位:円)

科 目	2002年度 予算額	2001年度 予算額	備 考
1 繰 出 金	0	0	
3 予 備 費	102,661	102,597	
合 計	102,661	102,597	

3. 理事選挙結果 (上位10名を当選者とする。敬称略)

順位	氏 名	順位	氏 名
1位	大橋 謙策 (関東)	6位	白澤 政和 (関西)
2位	秋山 智久 (関西)	6位	硯川 眞旬 (九州)
3位	宮田 和明 (中部)	8位	岩田 正美 (関東)
3位	黒木 保博 (関西)	9位	井岡 勉 (関西)
5位	中嶋 和夫 (中国四国)	10位	鬼崎 信好 (九州)

4. 監事選挙結果 (上位2名を当選者とする。敬称略)

順位	氏 名	ブロック
1位	右田 紀久恵	関 西
2位	牧里 毎治	関 西

【第6号議案】新理事および監事の承認

2001年度改選 (第20期理事会)

日本社会福祉学会理事および監事ブロック別一覧

ブロック名	選挙選出理事	推 薦 理 事	監 事
北 海 道		松 井 二 郎 米 本 秀 仁	
東 北		高 澤 武 司	
関 東	岩 田 正 美 大 橋 謙 策	阿 部 寛 大 友 信 勝 福 山 和 女 山 崎 美 貴 子	三 浦 文 夫
中 部	宮 田 和 明	中 田 照 子	
関 西	秋 山 智 久 井 岡 勉 黒 木 保 博 白 澤 政 和	上 野 谷 加 代 子 牧 里 毎 治	右 田 紀 久 恵
中 四 国	中 嶋 和 夫		
九 州	鬼 崎 信 好 硯 川 眞 旬		

追悼 岡村重夫先生



岡村重夫先生が昨年12月22日に95歳で、安らかに逝去された。以前から「亡くなったら、葬式はしなくてよい」が口癖であったが、「無葬無骨虚空の塵」との遺言のもと、24日多可夫人を喪主に近親者のみで葬られた。

先生は東京帝国大学文学部倫理学科を卒業し、戦後の焼け跡を目前にして社会福祉の研究を始められ、大阪市立大学で社会福祉学科を創設された。大阪市大定年後は関西学院大学や佛教大学で教鞭をとられ、大阪社会事業短期大学学長を務められた。この間、日本社会福祉学会創設時から8期にわたり理事として学会運営に関わり、昭和38年から昭和39年の第5期には代表理事を務められ、本学会の礎を築いてこられた。先生からは、本学会創設にあたって「日本社会福祉学会」と「日本社会事業学会」のどちらの学会名にするのかで、関東と関西の研究者間で随分論争されたことを伺ったこともある。

先生が遺されたことは、学者としても人間としても偉大で言い尽くせるものではないが、岡村という名前が冠になっている3つの言葉が先生の人となりを最も言い表している。それは、「岡村理論」、「岡村美学」、「岡村山脈」である。

「岡村理論」とは言わずと知れた岡村社会福祉理論のことであり、個人の生活を人と社会制度との関係から解明し、生活者の主体的側面からの支援に着目する理論は、昭和31年に出版された『社会福祉学（総論）』で体系化し、その後一層精錬され強固なものになっていったものである。今日においても、日本の社会福祉理論の中心に位置づき、今なお威光を放っている。先生の理論は、公私の社会福祉実践分野を常にリードす

る先駆性の高いものであり、地域福祉活動の理論的指導、社会福祉行政やソーシャルワーク実践への貢献、里親や養子縁組の開発といった実践活動へと結実していった。岡村理論を源泉にして、社会福祉研究は大きな広がりをみせ、同時に多様な実践が展開され、日本の社会福祉界に与えた影響は計り知れない。

「岡村美学」とは、先生の人となりを示すことであり、研究には貪欲であるが、人に対する誠実さと清貧かつ崇高な精神を表わす生活姿勢に、人は先生の中に美を見い出してきた。この美学は、研究だけでなく、老後に始めた水墨画や陶芸を玄人の域にまで高めた才能や、謡曲や鼓さらに篆刻といった広範囲な趣味も、先生の美を引き立ててきた。

「岡村山脈」とは、日本社会事業大学名誉教授吉田久一先生が著書の中で名づけられた言葉であり、「岡村理論」と「岡村美学」に感銘を受け、先生から薫陶を受けた多くの研究者や実践者が全国各地で輩出されてきたことである。先生は、志のある者に対しては、出身大学等で分け隔てすることなく、熱心に社会福祉論を語りかけ、こうした先生を慕う者は枚挙にいとまがなく、自ら弟子と称する者は限りがない。

日本社会福祉学会は、先生方が創設されて半世紀が経ち、今年は記念すべき50回大会を迎えようとしており、会員は4千名を超える規模にまで成長を遂げたが、岡村理論を超える社会福祉理論は遅々として進まないまま今日に至っている。今後は、残された4千名会員が、先生の御遺徳を偲び、岡村理論をさらに発展させ、社会福祉学の固有性を一層明確にしていかなければならない気持ちで一杯である。

岡村先生、どうか安らかにお休みください。そして、先生が追求されてきた社会福祉学を学会員がさらに追求し、確立への途を歩み続けることを、お見守りください。

広島国際大学 副学長 右田紀久恵
大阪市立大学大学院 教授 白澤 政和

日本社会福祉学会 第20期 理事・監事

(2001年から2004年)

役 職 名	氏 名	所 属
会 長	大 橋 謙 策	日本社会事業大学
副 会 長	宮 田 和 明	日本福祉大学
特別委員会担当理事 (機関誌担当理事兼任)	秋 山 智 久	大阪市立大学
総 務 担当理事	白 澤 政 和	大阪市立大学
庶 務 担当理事	大 友 信 勝	東洋大学
渉 外 担当理事	黒 木 保 博	同志社大学
渉 外 担当理事	牧 里 毎 治	関西学院大学
研 究 担当理事	井 岡 勉	同志社大学
研 究 担当理事	鬼 崎 信 好	福岡県立大学
研 究 担当理事	山 崎 美 貴子	明治学院大学
研 究 担当理事	阿 部 實	日本社会事業大学

役 職 名	氏 名	所 属
機関誌 担当理事	岩 田 正 美	日本女子大学
機関誌 担当理事	米 本 秀 仁	北星学園大学
北海道 担当理事	松 井 二 郎	北星学園大学
東 北 担当理事	高 澤 武 司	岩手県立大学
関 東 担当理事	福 山 和 女	ルーテル学院大学
中 部 担当理事	中 田 照 子	同朋大学
関 西 担当理事	上野谷 加代子	桃山学院大学
中四国 担当理事	中 嶋 和 夫	岡山県立大学
九 州 担当理事	硯 川 眞 旬	熊本大学
監 事	右 田 紀久恵	広島国際大学
監 事	三 浦 文 夫	武蔵野女子大学



2001年度第2回 理事会報告

日 時 2001年10月19日 14時より
会 場 沖縄県ラグナガーデンホテル
出席者 19期理事監事（氏名は別掲）および
オブザーバーとして20期理事監事（19日のみ）
第49回大会委員長、事務局長（19日のみ）
会 長 挨拶

会議に先き立ち、大会の「特別講演」「大会シンポジウム」「特別企画シンポジウム」等のために来日した外国の方々と相互に自己紹介をした。

① 大会記念講演……ジェイムズ・ミッジリ氏

② 大会シンポジウムシンポジスト

……Kay Y..K..Ku氏

咸 世南氏

高 嶺 豊氏

萩原 康生氏

③特別企画シンポジウムシンポジスト

……イルワント氏

M・ラジェンドラン氏

エベリナ・パンガランガン氏

ギャム・ティ・リャン氏

④韓国社会福祉学会副会長

韓国社会福祉学会総務

理事会審議開始

議案1 49回大会事務局長報告

テロや炭素菌の影響でキャンセルも出たが、おおむね順調である。

議案2

・50回大会報告（日本社会事業大学）

記念講演の候補は検討中。シンポジウムは大会ごとの継続を検討している。

・51回大会（関西大会）

現在会場の調整中で、2002年1月ごろ結論を出す予定なので、その後地方部会担当理事と詰めたい。

・52回大会（東洋大学）

学会創立50年大会となる2004年には新しい校舎も完成していると思う。

議案3 総会の運営について

・議長団には、恒例により大会実施校の川添大会委

員長と次期開催校より阿部理事。

・新名誉会員の推挙について。花束の贈呈の確認。

・総会議題について

「理事の任期3年通算4回」とする規約改正案についてオブザーバーより疑義があったが、半年をかけて会員にも広く意見を求めた結果を検討しながら理事会が決定した案である。総会で意見がある場合は発言していただく。

議案4 入会審査について

入会希望のあった70名について、審査の結果入会を認めた。

報告事項① 名誉会員の大会参加状況

報告事項② 19期理事会引継事項

日本学術会議は登録団体の会員の要件に「研究者を半数以上」いないと認められないため、申し込者の資格を制定させる。

報告事項③ 『日本社会福祉学会50年史』（仮称）の刊行

50年間の資料が散逸し、どこかに保存されているかまた、初期の頃の聞き取りを開始したりし始めている。

報告事項④ 在日社会福祉学専攻留学生協議会（日韓社会福祉学術交流分科会）の発足

正式に10月に発足し、学会から10万円援助している。

報告事項⑤ 名簿のCD-ROM版の発送

大会直前に発送が終わった。

2001年度第2/3/4回理事会出席状況

会 長	大 橋 謙 策	○
会長職務代行・関西担当理事	岡 本 民 夫	○
総 務 担当理事	高 橋 重 宏	○
渉 外 担当理事	古 川 孝 順	○
機関誌 担当理事	白 澤 政 和	○
庶 務 担当理事	田 端 光 美	○
北海道 担当理事	杉 村 宏	○
東 北 担当理事	佐 藤 嘉 夫	欠
関 東 担当理事	山 崎 美貴子	○
中 部 担当理事	高 島 進	欠
中四国 担当理事	鈴 木 勉	○
九 州 担当理事	保田井 進	欠
理 事	一番ヶ瀬 康子	欠
理 事	右 田 紀久恵	欠
理 事	岡 本 栄 一	○
理 事	京 極 高 宣	○
理 事	田 代 国次郎	○
理 事	三 浦 文 夫	○
理 事	宮 田 和 明	○
理 事	佐 藤 進	○
理 事	中 垣 昌 美	○



10月19日20期理事・監事の第2回理事会オブザーバー
出席者

理 事	秋 山 智 久
理 事	黒 木 保 博
理 事	井 岡 勉
理 事	鬼 崎 信 好
理 事	阿 部 實
理 事	米 本 秀 仁
理 事	高 澤 武 司 (代 大沢隆)
理 事	福 山 和 女
理 事	中 田 照 子
理 事	中 嶋 和 夫
理 事	硯 川 眞 旬

第3回理事会 報告

日 時 2001年10月20日 11時40分より
会 場 沖縄コンベンションホール会議室
審議事項 入会審査 4名承認

第4回理事会 報告

日 時 2001年10月21日 12時00分より
会 場 沖縄国際大学401教室
審議事項 入会審査 1名承認

新入会員 (75名)

2001年度第2回理事会承認

浅井 祐子	湊川女子短期大学	田島 洋介	東久留米市社会福祉協議会
泉谷 利彦	兵田病院	立花 明彦	静岡県立大学短期大学部
市川 太郎	東京工学院専門学校	辰巳 佳寿恵	大阪体育大学短期大学部
岩崎 房子	鹿児島国際大学大学院	楯 雅博	総合福祉センター弘済学園
宇田 美穂	新潟市新潟医療福祉大学	田中 希世子	同志社大学大学院
内海 佳余	広島文教女子大学	谷口 正厚	沖縄大学
大城 泰造	東北福祉大学 感性福祉研究所	出川 聖尚子	湘南工科大学
大野 太郎	法務省矯正局大阪少年鑑別所	時本 英知	東北福祉大学大学院
大山 朝子	鹿児島国際大学大学院	中 みちる	県立広島女子大学大学院
岡村 弘	久留米信愛女学院短期大学	長澤 真由子	龍谷大学大学院
岡本 眞幸	横浜女子短期大学	長谷 憲明	東京都福祉局総務部計画調整課
長田 泰彦	名古屋福祉法経専門学校	中村 寿子	広島文教女子大学
小野 忍	札幌福祉専門学校	中村 美安子	日本社会事業大学大学院
影山 優子	日本社会事業大学	西口 彰子	岡山県立大学大学院
勝本 映美	済生会熊本病院	畠山 千春	共栄学園短期大学
加藤 定夫	宇都宮短期大学	服部 いづみ	東海大学大学院
金和 史岐子	身体障害者療護施設 たまきな荘	花田 昌宣	熊本学園大学社会福祉学部
川島 典子	同志社大学大学院	姫野 建二	荒尾市養護老人ホーム緑風園
菊池 健志	日本社会事業大学大学院	坊岡 正之	大阪市職業リハビリテーションセンター
金 東洙	東京福祉大学	星川 理恵	北星学園大学大学院
久保田 開	光星学院高等学校	洪 金子	東京福祉大学
小松 一子	同志社大学大学院	益田 幸辰	駒沢大学大学院
小松尾 京子	鹿児島国際大学	松井 英俊	県立広島病院
佐伯 幸雄	熊本学園大学大学院	松山 真	北里大学
佐藤 陽	富士見市社会福祉協議会	水谷 浩	兵庫県立神戸商科大学大学院
澤田 有希子	関西学院大学大学院	村田 美由紀	日本社会事業大学大学院
繁成 剛	近畿福祉大学	明路 咲子	流通科学大学
下西 さや子	広島YMCA健康福祉専門学校	森 幸治	学校法人 久留米ゼミナール
下村 幸仁	広島市南福祉事務所	森下 浩子	広島国際大学
杉原 努	佛教大学	矢島 雅子	久留米大学大学院
杉原 真理子	大阪薫英女子短期大学	安井 理夫	同朋大学
鈴木 孝典	医療法人 丹沢病院	山田 眞知子	フィンランド国立社会福祉保健研究開発センター
高田 泉	呉大学	山中 冴子	一橋大学大学院
高橋 和巳	王慈福祉会	横山 貴美子	日本社会事業大学
高橋 聖子	王慈福祉会	吉川 雅博	愛知県立大学
高橋 正子	日本女子大学	吉野 陽子	日本社会事業大学大学院
竹本 与志人	岡山県立大学大学院	李 賢洙	東京都立大学大学院
田嶋 英行	東京都立大学大学院		

他学会の大会予定

日本社会福祉学会

- * 第50回日本社会福祉学会全国大会
2002年10月26日(土)/27日(日)

日本社会事業大学

社会事業史学会

- * 第4回社会事業史学会大会
2002年5月11日(土)/12日(日)
中京大学名古屋キャンパス

日本医療社会福祉学会

- * 日本医療社会福祉学会第12回大会
2002年9月14日(土)/15日(日)
日本女子大学

日本介護福祉学会

- * 第10回日本介護福祉学会大会
2002年9月28日(土)/29日(日)
長崎純心大学

日本児童学会

2002年初旬予定 会場未定

日本児童育成学会

- * 平成14年度・理事会・総会・研究発表大会
2002年7月上旬予定
こどもの城

日本職業リハビリテーション学会

- * 日本職業リハビリテーション学会第30回大会
2002年7月18日(木)/19日(金)
愛知県立大学学術文化交流センター

日本地域福祉学会

- * 日本地域福祉学会第16回大会
2002年6月15日(土)/16日(日)
武蔵野女子大学

日本難病看護学会

- * 第7回日本難病看護学会学術集会
2002年8月22日(木)/23日(金)
東京都立保健科学大学

日本年金学会

- * 第22回日本年金学会総会・研究発表
2002年11月7日(木)/8日(金)
生命保険協会講堂

日本保健医療社会学会

- * 第28回日本保健医療社会学会大会
2002年5月18日(土)/19日(日)

日本赤十字看護大学

日本老年社会学会

- * 日本老年社会学会第44回大会
2002年7月4日(木)/5日(金)
福岡県中小企業振興センター

日本社会事業学校連盟

- * 第32回社会福祉教育セミナー
2002年10月12日(土)/13日(日)
龍谷大学

日本社会福祉士養成校協会

- * 第4回ソーシャルワーク実践教育研修講座
2003年1月5日(日)/6日(月)
安田生命アカデミア

学会ニュース 編集後記

2001年(第49回)大会において、新たな21世紀のビジョンを求めて「アジアの社会福祉と日本」がテーマになった。平和の世紀がアメリカの同時国際多発テロの影響をまともに受けることになったが、異なった文化を学び、受け入れ、相互理解から協調、そして共生への文化を創りあげていくことの重要性を教えられた。大会実行委員会が予期しない出来事の影響を受けつつ、大会を成功させてくださったことに、改めて敬意を表したいと思う。

学会総会において、学会規約が大きく改正され、役員体制も新たに出発することになった。21世紀は、学術会議・社会福祉・社会保障研連(福祉研連)の役割が、重要になり、その世話学会としての本学会の位置がさらに重いものとなる。

わが国の社会福祉学理論の体制化をはかった名誉会員岡村重夫先生の逝去に接し、心から慎んで哀悼の辞をささげます。

田端光美前理事から庶務担当理事を引き継ぎ、事務局を担当するので、よろしくお願いいたします。

(大友 信勝記)

事務局連絡

▼今年度冊子の名簿の他にCDROMの名簿を作成いたしました(500円)。お支払いいただいていない会員は、至急納入ください。

▼毎年会費等の振り込みに使用している用紙は、本年4月1日より銀行名および支店名が変更になりますので、使用できません。ご注意ください。(新しいものは、「みずほ銀行」「四谷駅前支店」になります)

発行人 大橋 謙策 学会ニュース29号
編集人 高橋 重宏
発行日 2002年3月5日
発行 日本社会福祉学会
〒160-0008 東京都新宿区三栄町8
森山ビル西館501
TEL.03-3356-7824 FAX.03-3358-2204
Email jssw@ma3.justnet.ne.jp
URL http://www.soc.nii.ac.jp/jssw/
<2月末現在会員数 4,188人> (印刷/原孔版)